外来の指標

[糖尿病の患者の血糖コントロール]

[下肢静脈瘤手術実施件数]

[食物経口負荷試験実施件数]

[救急車受け入れ割合]

[無料・低額診療申請件数]

[外来患者満足度]

＜糖尿病とHbA1c＞

ヘモグロビン（Hb）とは、血液の赤血球に含まれているタンパク質の一種で、酸素と結合して酸素を全身に送る役目を果たしています。このヘモグロビン（Hb）は、血液中のブドウ糖と結合するという性質を持っているんです。そのブドウ糖と結合した物の一部分が、ヘモグロビン A1c と呼ばれています。

血液検査の結果、この HbA1c の値が高ければ高いほどたくさんのブドウ糖が余分に血液中にあってヘモグロビンと結合してしまったということがわかります。

正常な成人の HbA1c 値は　6.2%以下とされています。

一方、それ以上の数値ですと、高血糖状態が続いていた、ということになります。この数値が、8.4%を超えた状態が長く続きますと、色々な合併症を起こすと言われていますので、多くの医療機関では、この数値を下げることに主眼がおかれています。

＜当院の取り組み＞

糖尿病患者の病状を安定させるには、適切な食事療法や運動療法の指導および薬物療法の実施が必要です。当院では患者の血液検査のデータから異常値を抽出、糖尿病治療薬使用患者の抽出により、指導が必要な患者をリストアップし、個別の栄養指導や集団糖尿病教室の定期的開催、糖尿病患者会の運営等、積極的な指導の実施に取り組んでいます。

＜指標と結果＞

本指標では、外来患者の中の A)HbA1c＜7.0%：コントロールが良好な患者の割合　と、B) HbA1c＜6.5%：正常値の患者 の割合をみることで、診療の質を評価しています。

本年は「コントロールが良好な患者の割合」は変化なし。「正常値の患者

の割合」は微増しました。

		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
	患者数	502人	502人	419人	406人	424人
HbA1c	平均値	7.0	7	6.9	7.2	6.8
	最大	11.5	11.5	11.8	11.6	14
	最小	5.1	5.1	4.9	5.2	5.2
	9.0-	22	22	14	14	9
	8.0-	38	38	23	45	15
	7.5-	45	45	42	56	32
	7.0-	72	72	76	97	64
	6.5-	168	168	158	136	209
	6.0-	127	127	84	45	80
	6.0未満	30	30	22	13	15
コントロール不良		35%	35%	37%	52%	28%
コントロール良好		65%	65%	63%	48%	72%

コントロール不良

コントロール良好

みどり病院外来糖尿病薬服用患者のHbA1c分布

糖尿病薬服用患者にかぎって抽出を行うと、2015 年にコントロール不良患者が増加しましたが、本年は減少し、糖尿病患者の管理が適切に行われていると考えます。

外来 TOP に戻る

下肢静脈瘤の手術実施件数

下肢静脈瘤とは足の静脈が太くなってコブ状に浮き出て見えるようになった状態をいいます。症状は足がだるい、重い、痛い、かゆい、じんじんする、むくむ、冷える、こむらがえり（足がつる、足の色が黒くなる、潰瘍ができるなどが起こりやすくなります。特に長時間同じ姿勢で立ったままでいると、夕方に症状が憎悪することが特徴的です。朝にはむくみや痛みが軽減していることが多くみられます。かゆみも静脈瘤の症状であることが多く、静脈瘤の治療をするとよくなります。

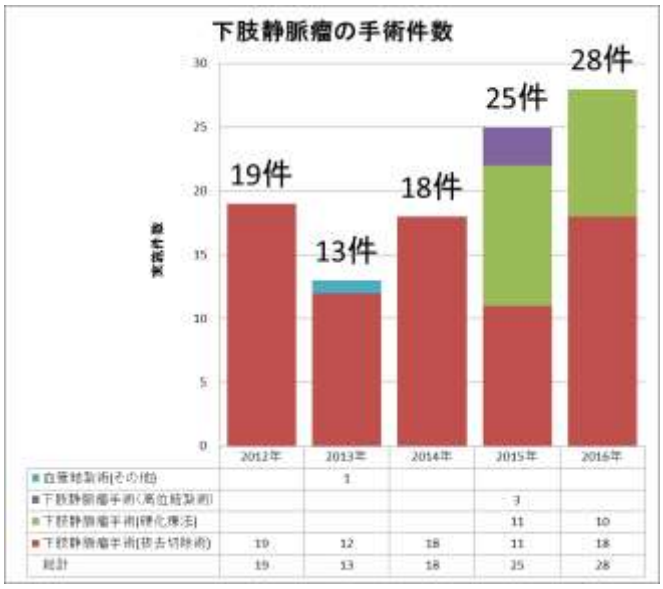
さらに病状が進むと、足の皮膚の色がついたり（色素沈着）、皮膚のただれ（潰瘍）ができることがあります。こうなってからでは、治療に時間がかかり、きれいな皮膚に戻ることは難しくなります。

肢静脈瘤の症例１

下肢静脈瘤の症例２

下肢静脈瘤は下肢の静脈の逆流防止弁が壊れた為に、そこに血液が溜り、ふくらはぎ辺りに血管がボコボコと瘤状に浮いて見える様になった物です。

妊娠・出産を契機に発症することが多いので、女性に多いと言われています。また、立ち仕事に従事している人、特に歩き回らず何時間もたちっぱなしになるという場合は、下肢静脈瘤を発症しやすく、この場合には男性にも発症します。発症後、自然に治ることはなく、年を経るごとに徐々に進行していきます。同情報元より、50 歳代以上の患者が占める割合は、女性 84％・男性 74％とやはり年配の方の占める割合が高いため、加齢は下肢静脈瘤に関係すると言えます。



当院では専門医による治療・手術を毎週水曜日午前の外科外来にて行っています。

手術は症状により異なりますが日帰り～１泊で行えます。

近隣に同様の手術を行える医療機関がないことから、需要は増加傾向にあります。

外来 TOP に戻る

食物アレルギー検査実施件数

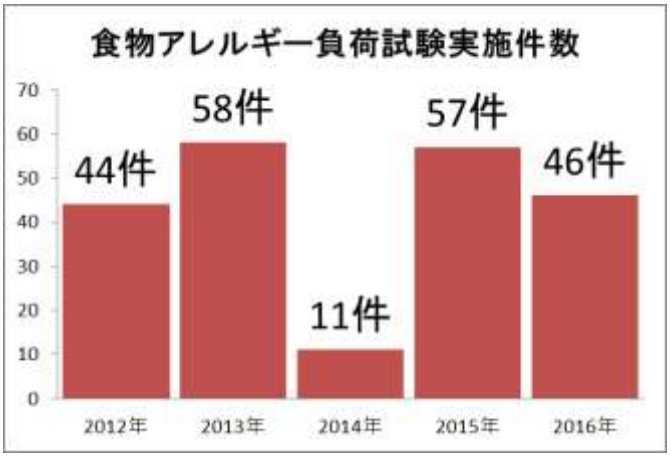
食物アレルギーは子どもに多くみられるのが特徴で、6 歳以下の乳幼児が患者数の 80%近くを占め、1 歳に満たないお子さんでは 10～20 人にひとりが発症しています。

子どもに食物アレルギーが多いのは、成長段階で消化機能が未熟で、アレルゲンであるタンパク質を小さく分解（消化）することができないのがひとつの要因と考えられています。そのため、成長にともなって消化吸収機能が発達してくると、原因食物に対して耐性（食べられるようになること）がつく可能性が高いのです。しかし、中には大人になっても症状が続くものもあり、幼児期後半以降（成人も含む）に発症した食物アレルギーは治りにくいとされています。

アレルギー症状では、最も多いのが皮膚症状（じんましん、痒い、皮膚が赤くなる、顔が腫れるなど）です。呼吸器症状（咳、ゼイゼイする、呼吸困難）、粘膜症状（口が腫れる、目が赤くなる腫れるなど）、消化器症状（腹痛、吐く、むかむかする、下痢）などの症状も同時または別々に出現します。重症では血圧が下がって意識がなくなる、ぐったりなるアナフィラキシーショックを呈することもあります。

みどり病院小児科ではアレルギー外来を行い、日帰り入院の食物経口負荷試験も行っております。食物経口負荷試験は、食物アレルギーの正確な診断や、除去してきた食品が食べられるようになったかどうか（耐性獲得）の確認のための検査です。

本年度は当院の常勤アレルギー専門医が産休の為、非常勤医師にて診療を行い、やや件数は減少しました。



検査食一例

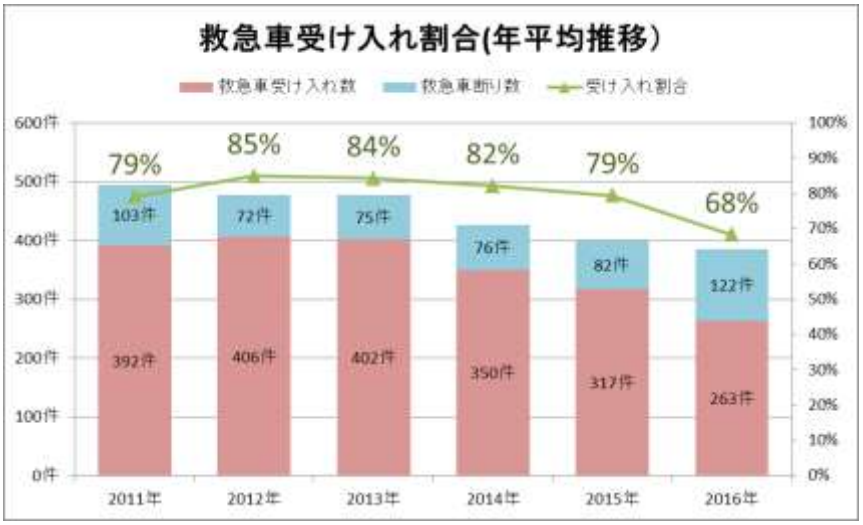
外来 TOP に戻る

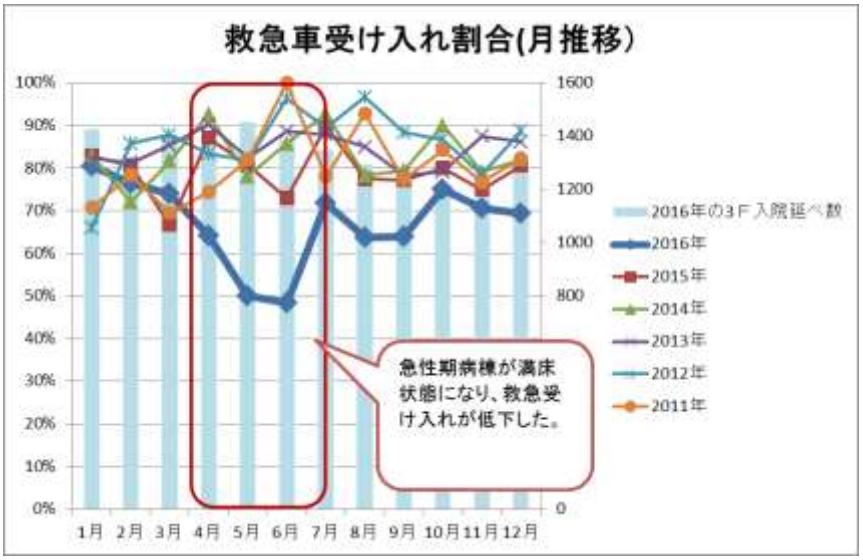
２０１５年以降から本年にかけて、受入割合が減少傾向にあります。

2014 年１０月の回復期リハ病棟開設以降、一般急性期病棟半減により受入可能か病床数が大幅に減少しましたが、「地域からの要請を断らない」を合い言葉に積極的受入に取り組んできました。

しかし満床や個室部屋満室の為、断ざるえない場合がありました。

特に本年 2016 年 4～6 月中、退院調整がうまくいかない事による満床状態が問題となった事から、ベッドコントロール会議の開催、退院困難事例検討会、入院早期退院調整、カンファレンスの早期実施等の対策を行いました。それにより、病床の調整がスムーズに行われるようになり、結果救急車受け入れ割合の上昇にもつながりました。





外来 TOP に戻る

当院では 2009 年６月から制度開始「無料低額診療事業」を開始しました。「お金のあるなしで医療が差別されてはいけない」という信念のもとで、差額ベッド料を徴収せず、困難を抱えた人」たちの「最後のよりどころ」として医療や介護に関する相談活動をすすめています。

国民の経済格差が社会問題となる中、大企業による「派遣切り」「雇い止め」「人員整理」、「倒産」や「廃業」で、市民の暮らしはいっそう深刻になってきています。その結果、医療費の支払いが困難で治療を中断したり、保険料が支払えなくて保険証が発行されず、手遅れになる患者さんの事例も増えてきており、命や健康を守る私たちにとっては心が痛みます。

当院でも、同様のご相談を頂く件数が毎年増加傾向にあります。

私たち岐阜勤医協の病院・診療所は、社会福祉法に基づいて、経済的な理由により適切な医療を受けることができない方々に対し、無料または低額な料金での診療を 2009 年６月１日から開始しました。岐阜県内の一般病院では初めての取り組みとなります。

「無料・低額診療事業」は、生活困難な方が経済的な理由によって必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう、無料または低額な料金で医療を利用していただくもので、社会福祉法に位置づけられている事業です。

ご相談があった患者様へは、各種公的支援制度の適応を検討、案内、申請支援を行います。その上で、各種制度に適応しない又は申請・受理・施行に至るまでの一定期間に対し、一定の基準（おおむね生活保護基準の１･５倍未満）を満たした場合に院内にて協議の上、無料・低額診療が適応され、自己負担分の一部～全額をみどり病院が負担します。

年間の無料低額診療適応患者は毎年20件前後になります。

無料低額診療に関するご相談は、当院よろず相談室までご連絡ください。

外来TOPに戻る

アンケートは「治療の結果」「職員の接遇」「院内設備」など複数の項目で実施いたしました。

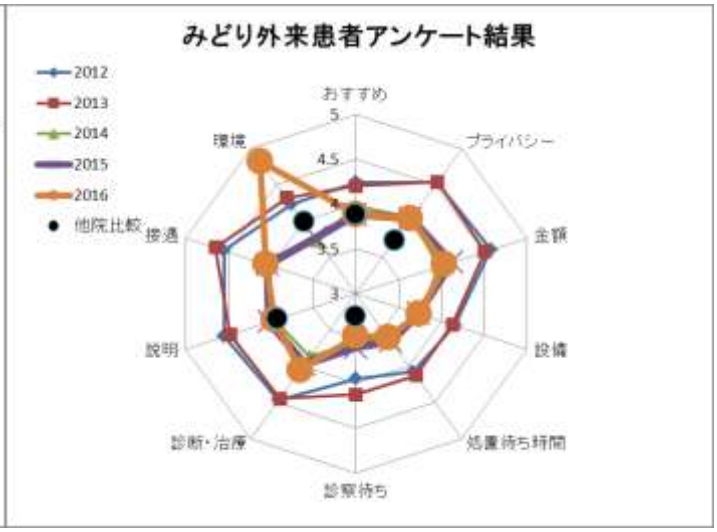
各項目に対し５段階評価を行って頂き、「５：満足している」「４：やや満足している」の合計の割合を満足度として算出しています。

本年は満足度が上昇しました。

特に「院内環境」で高評価を得ています。ただし、他の項目では大きく変わらず、「診療待ち時間」については「我慢できない時間ではないが、やや長い」といった評価がなされ、昨年よりも低い評価になっています。

当院では診療待ち時間の短縮の為、「定期通院患者へ隣接する診療所での予約診療の案内」「定期通院患者へ専門予約外来への案内」等を行い、一般診療枠での定期患者と救急患者の混在を避ける事で診療待ち時間の短縮に取り組んでいます。

今後とも患者様の声を真摯に受け止め、改善に取り組んでいきます。



外来 TOP に戻る